

1 日時	平成29年7月6日（木）	15時～16時半
2 場所	防府市保健センター	
3 出席者	<b>【委員】</b> 藤村委員、山本委員、右田委員、松浦委員、豊田委員、 松田委員、西村委員、中村委員、橋本委員、防川委員、 寺内委員、田中委員、宇野委員、藤元委員、田中委員、 畦森委員、東福委員、松林委員 ※欠席：山本委員、岩城委員、山崎委員 （事務局） 林健康福祉部長、藤井健康福祉部次長、工藤健康福祉部 次長兼健康増進課長、小野技術補佐、原田係長、鳥飼、 島、渡邊、角、林、藤原、大藤	
4 傍聴者	0名	
5 議題	（1）庁内各課の平成28年度の取組状況と平成29年度 取組予定について （2）各団体の取組状況と、防府市の現状と課題について （3）今年度のスケジュール （4）その他	

## 1 開 会

### 2 健康福祉部長 挨拶

平素より防府市福祉行政に御理解・御協力頂き感謝している。福岡、大分では大変な災害が起き、防府市からは18人の消防職員を派遣している。今後募金やボランティアのお願いなどがあれば、その節には御協力いただけたらと思う。

さて平成29年3月に、委員の皆様へ御協議いただき、健やかほうふ21行動計画の策定をいたしたところである。これからはこの行動計画を元に、市民の皆様へ各団体等に健康づくりや食育等に力を注いでいただくこととなる。

本日は市の各課の取組状況について、また各団体の取組状況と、防府市の現状と課題について、お示しをし、今後の推進について御協議いただく予定である。

今年度は今回を含め、2回開催予定である。皆様の忌憚のない御意見を頂き、行動計画を着実に市民の皆様や各団体で推進していきたいと思っている。御協力をよろしくお願ひしたい。

### 【事務局】

委員交代の紹介

防府市中学校PTA連合会の岩城委員、防府とくち農業協同組合の田中委員

### 3 自己紹介

各委員、自己紹介

#### 【事務局】

会議欠席のお知らせ

### 4 議 事

(1) 庁内各課の平成28年度の取組状況と平成29年度取組予定について

#### 【事務局説明】 資料1に基づき説明

(健康増進課の取組)

・母子歯科保健事業は、1歳6か月児健診、3歳児健診時に健診に来た保護者全員に、歯科衛生士より、正しいブラッシング方法等の歯科保健指導を行う。また乳幼児相談での歯科衛生士の相談は、平成27年度までは3か月に1回の実施だったが、委員からも、歯と口の健康は、若いうちからの取組が大切との意見もあり、平成28年度からは、2か月に1回と頻度を増やし、母親の歯周病予防も含めた歯みがき指導・相談を行っている。今年度も引き続き実施していく。

・健康マイレージ事業は、ケンシン受診や健康づくり教室への参加等を行うことでポイントを貯め、市内の登録店舗で特典を受けられるという事業。平成27年度から始まり、発行部数は、平成27年度は537件、平成28年度は653件と増加している。しかし課題としては、この事業を知らない市民も多いため、今年度は市広報やホームページだけでなく、がん検診等受診ハガキに載せ、更なる周知をしているところである。また健やか委員さんからも、男性にも魅力がある特典があると良いとの意見もあり、今年度は男性向けの特典のある店舗も開拓していきたいと思っている。

・がん検診については、平成28年度は10月から前立腺がん検診を新たに開始し、受診者は505人であった。平成28年度の課題としては、どのがん検診も年々受診者数が減少しているため、各委員からも、受診内容や啓発方法の工夫が必要ではとの意見もあり、今後は各委員から意見をいただきながら受けたいと思えるような啓発方法等を検討していきたいと考えている。また今年度7月からは、胃がんの早期発見を目的に、新たに胃内視鏡検診を始めた。

・妊婦の保健指導事業について、平成28年度の課題は、気になる妊婦への支援が十分にできていないという実情があったが、今年度は産前産後の子育て支援の充実を図るため、子育て世代包括支援センターを10月から開設し、支援センターの職員と地区担当保健師で連携しながら、特定妊婦への支援の充実を図っていく。

(文化・スポーツ課の取組)

主に「身体活動・運動」に関連する事業があり、市内各地区で多くのスポーツ教室や行事を開催している。課題として、定員に満たない教室や、参加者の固定化が進んでいるため、内容等の工夫や見直しが必要である。

(保険年金課の取組)

特定保健指導は、県内でも防府市は特定保健指導の利用者が少ないことが課題と

なっており、平成28年度は、利用券送付時にメタボ教室の案内チラシや参加を促す手書きメモを同封する等の工夫を行った。28年度は、動機付け支援利用者は73人、積極的支援利用者は16人と増加している。今年度も引き続き、未利用者に対して利用しやすい方法等を工夫しながら実施していく予定である。

(障害福祉課の取組)

主に障害者のスポーツ参加や交流を目的にスポーツ大会を実施している。また相談支援事業として、障害者や難病患者、その家族等からの相談や支援を実施している。

(高齢福祉課の取組)

高齢者の介護予防を目的として食生活や歯と口の健康、運動、健康管理に関する事業を実施している。

(社会福祉課の取組)

28年度から2番の防府市犯罪被害者等支援講演会を廃止し、市内小中学校における「いのちの学習」を市内小中学校4校で開始している。今後も毎年5校程度を実施していく予定である。

(学校教育課の取組)

「薬物乱用ダメ、ゼッタイ教育」では、たばこを含めた薬物乱用の未然防止と若者の健全育成を図ることを目的に、市内全28小中学校で実施している。今後も引き続き継続していく予定である。

その他、各課の各事業については資料を参照のこと。

## 【会長】

大変多くの内容の資料を足早に紹介していただいた。質問がなければ議事2にうつる。

## (2) 各団体の取組状況と、防府市の現状と課題について

### 【事務局説明】 資料2に基づき説明

今後の推進を考える上で大切となる、防府市民の現状と先日各委員より聞き取った各団体の取組の現状について資料にまとめた。これらより、事務局が防府市の課題と感じたことについて説明する。

### 「栄養・食育」について

現状について、資料にて説明する。

各団体の取組は、子ども世代では、様々な場を通して啓発活動や体験学習などの取組をされており、各団体の食に関する意識が高いことがわかる。意識は高いが、委員から、発信した事が本当に親に伝わっているのだろうか？家庭で実践できているのだろうか？と感じ、親への働きかけに悩んでいる現状がわかった。大人世代への取組をみると、職域との連携を図っている団体・機関はあるものの、取組が少ない現状があることがわかる。

課題としては、子ども世代の親への働きかけと、自立した生活を送る20代へ働きかけに取組む事にあると考える。

## 「歯と口の健康」

現状については、資料にて説明する。

各団体の取組状況では、妊娠期へは、どこの団体も取組がない現状である。子ども世代では、食の取組と同様、各団体により多くの取組があることがわかる。働く世代では、子ども世代まではあった歯科検診の機会が多く企業ではない。歯科保健への取組はまだ少ない現状だとわかる。

これらより、歯と口の健康については、取組の少ない妊婦と、働く世代への働きかけが必要だと感じる。

## 身体活動・運動

現状については資料にて説明する。

各団体の取組をみると、子ども世代では、園や学校・地域で運動や体を動かす機会があり、学校では自分の体力をチェックする機会もある。大人世代をみると、各種教室等、運動やスポーツをする場の提供はあるが、参加者の固定化や若者の参加が少ない現状がある。

現状より、特に20～40代の女性に対しての働きかけが必要と考える。

運動の必要性を感じない年代、スポーツの時間がなかなかとれないこの年代に対して、生活の中で今より意識して体を動かす習慣がもてるようになるためにどのように働きかけたらよいのだろうか。また、親を巻き込んだ楽しい身体活動をするためにはどのような働きかけがあればよいのだろうか。

## 日頃の健康管理

現状については資料にて説明する。

どの世代も、病気の早期発見や健康管理を目的に、ケンシンの機会があるが、園や学校・職場に所属している間は、自分が意識しなくてもケンシンを受ける機会が用意されているため受診率は高い。しかしケンシンの機会が少ない若い女性や、主婦・自営業者・退職者では、自分で意識しないとケンシンの機会が得られない。

各団体の取組をみると、大人世代に対して、市及び各保険者や関係団体とも、様々な工夫をこらし、普及啓発等おこなっているが、なかなか受診率の向上につながっていないのが現状である。また、各機関・団体とも、健診・健診事後指導の取組をおこなっているが、受診者を事後指導に結び付けることの難しさがあり、生活改善に結びついていない現状がある。

課題としては、自分で意識しないとケンシンを受ける機会が得られにくい、主婦、自営業者・退職者等への対策にあると考える。チラシ等の媒体を用いた啓発活動だけでなく、ケンシンの必要性を理解するための働きかけが必要だと感じる。

また、子どもの頃から、自分の体を大切にするためにケンシンを受け続けることを伝えていく取組も重要だと考える。

## 喫煙

現状については資料にて説明する。喫煙者の割合を県と比較すると、防府市は県内13市中、男性は一番高くワースト1位、女性は13市中4番目に高く、たばこを止めたい人は、男女とも県内で最も低い状況にある。

各団体の取組では、妊婦・乳幼児の親への取組が少ない現状である。

幼稚園・保育園・学校では敷地内禁煙に取組み、喫煙防止教育を行っている。大人世代への取組が少ないことがわかる。また、禁煙外来は市内14ヶ所あるが、利用者は少ないのが現状である。

学校の授業でたばこの害を学ぶが、どうして吸い始めてしまうのか。

身近な人が吸っていると、子どもの喫煙のきっかけとなる。たばこを吸わない若者を育てる為には、子どもだけの教育ではなく、乳幼児・小中高校生の親世代への働きかけも必要と考える。

#### こころの健康

現状については資料にて説明する。

子ども世代の各団体の取組をみていくと、子育て世代の親に対しては、健診や、学校等で、相談できる機会がある。子どもの相談できる場合は、各学校や各機関が行う相談先の周知が行われている。大人世代の取組では、企業ではストレスチェック制度が始まったが、50人未満の企業や自営業や主婦層には、ストレスチェックをする機会がない。

各世代に共通する課題は、どの世代にもいる「相談できない人がいる」現状より、相談窓口の周知だけではなく、誰もが周りの人の変化に気づき、声をかけることができるようになる働きかけが必要である。

#### まとめ

子ども世代では、園や学校・地域で様々な取組があるが、働く世代への取組が少ないことがわかった。また、現状からは、全ての分野において、20～30歳代が特に心配であることがあらためてわかった。

この20～30歳代へのアプローチは難しい現状があるが、子ども世代に関わる団体では子どもの親であり、企業や働く世代に関わる団体にとっては、従業員であり、従業員の家族であり、また、高齢世代や地域団体にとっては、高齢者の子どもであり孫である。そのため、各団体が直接関わる対象者だけではなく、その対象者の家族や周りにいる人を意識してみると、20～30歳代や親世代に関われると考える。そうすることで、基本理念である、「みんなでつながり思いやる健やかなまち防府」になっていくと思う。

#### 【会長】

防府市の問題点が浮き彫りになったのではないかと。ご意見、ご感想、ご質問があればお願いしたい。まず世代ごとに各団体より意見を伺いたい。

(子ども世代より)

#### 【J委員】

保育園でも感じることである。こちら話を聞いてくれる母はよい。多くはないが、喫煙をする母、子供を叱る母、心の問題を抱えている親がいる。その方たちへのアプローチする方法について、職員間で協議するがうまくいかない。直接話す機会もあるが伝わらないなどの悩みがある。

### 【Q委員】

子どもの背景にいる親へのアプローチについて、小学校でも悩んでいる。お便りだけでなく、家族や父・母に直接会えるチャンスの際に、どの職員でもこちらが心配していること、気にかけていること、無理しないで欲しいということなどを声かけられるようにしている。子どもの心と身体の健康はその環境を支えてくださる親の力が大きいので、学校でも丁寧に働きかけて、支援していきたい。

### 【U委員】

がん検診の受診率について、子育て世代では時間を作って足を向けることがなかなか無いという現状がある。また子育て世代である私たちの世代は危機感があまりない。私の周りの状況に限るが、症状が出ないと行かない傾向にある。こういう症状が実際に出れば危ない等、具体的な例があれば、ちょっと行ってみようと思うのかもしれない。

### 【会長】

医師会としても考えなくてはいけない話である。がん検診を受けるきっかけとチャンスが欲しい。皆さんの意見をもっと頂きたい。

(働く世代より)

### 【I委員】

働く世代では時間が取りづらい状況がある。会社では定期的な検診を受けているが、早めの受診等に関しては、自分の体に自覚症状が出て初めて行くことが多い。従業員間の会話の中で、自分の体のケアについて気付かせる機会を作る必要がある。運動をするのが60歳から増えるのは、退職して自分の時間ができ、身体を見直す時間ができたからではないかと思う。それ以前から自分の身体を見直すことができる機会を作ることが必要であると思う。

### 【会長】

若い人は、自分は病気にならない、死なないと思っている傾向にある。

### 【H委員】

先ほど話もあったが、従業員50人以上の事業所は昨年からストレスチェックが必要になった。市内の90%以上は産業医もいない小規模事業者である。その中で、従業員の心のケア等について考えていく必要があると思われる。虫歯・歯周病については、進行すると歯を失うことになり、社会生活にも影響があるが、口腔ケアはなかなか企業の中でも考えられていない。全身の健康を保つことにも繋がるため、もう少し

企業でも考えていかないといけないと感じた。

**【会長】**

50人未満の小規模事業所は労働基準監督署が各企業を周り、健康診断を受けるよう動くように聞いているが、小さい企業でもストレスは多いはずであるため、もっと考えていく必要がある。

**【N委員】**

従業員に対して定期的な健診を行った後、データ化しどういった傾向にあるか健康状況の報告や事後指導を行っているが、受診率アップには繋がっていないのが現状である。口腔ケアはなかなか企業側としてもできておらず、これからの取り組みの中でも必要になってくるのではないかと思われる。

**【会長】**

健診の結果票を元に、事後指導が必要であり、方法にも工夫が必要になってくる。

(地域の関係団体として)

**【E委員】**

私たちが関わっているのは、60歳以上の高齢者が主である。ふれあい・いきいきサロンなどで関わる機会が多い。高齢者では口腔ケアが1番大事であるため、歯科衛生士をサロンに呼び積極的に指導をしていただくために、講師派遣の申込みを考えたい。

**【会長】**

高齢者も大切である。そして若い時からのケアが大切である。

**【D委員】**

自治会連合会の現状は、仕事をして退職した方が、地域の活動に参加しているという人が多い。60代は若い方であり、80代の方も元気に活動している。

今、地域の小・中学校でコミュニティスクールの活動が活発である。ボランティアで敬老会や地域の文化祭の発表等あるが、そのような場にでてくる学生は活発に年代を超えて話をするが、出てこない学生が気になる。年に3回くらいの校長との話し合いで、そこを伝えられたらと思う。自分達はバックアップの役目であるが、中間層の保護者との関わりは今の現状ではまだ出来ておらず、課題だと思った。今後、意識を向けていこうと思った。

### 【会長】

積極的にボランティアで出てくる学生は安心である。地域を巻き込んでみんなで支援できたらと思う。

### 【T委員】

私が衝撃を受けたのは、先日防府市でストレスをためて母が車の中に子どもを置き去りにしたことで子どもが熱中症になり死亡した件。母に心の問題があったのか、ストレスが溜まってしたことなのか、実際は分からないが、乳幼児健診や母推訪問をし、チェックをされた時にきちんとサポートすることで、防府でこのようなことが起きないようしていきたい。

### 【P委員】

母推は150人いる。家庭訪問をして、母親の産後うつ症状のチェックをしている。その時におかしいなと思ったとき、保健師に伝えている。年間4000件の訪問を実施している。赤ちゃんを中心に、その親、祖父母にも健康に関する情報を訪問時に提供をしていきたい。行政と協力し、行政と各家庭のパイプ役になって健康についても意識して取り組みたい。

### 【会長】

1人1人個別に地道に対応することが、大切である。

### 【K委員】

幼稚園では子ども達に健康面で様々な生活習慣を身につける取組をおこなっている。運動・体力増進・食育・歯の健康等、一日の日常の生活の中で子ども達に身に付くような指導をどこの園でもおこなっている。

私たちは子ども達の変容していく姿、具体的には、自分でしっかり食べ物を食べることができる、自分から歯みがきができる、運動ができる等、子どもが変わっていく姿を親がみて親も気づき、子ども一人では難しいため、親にも協力してもらい子どもは変わっていくと思っている。

先ほど防川委員からあったが、親に多くの子育てに優良な材料を与えているが、親に伝わっているかは見えていない。保護者に直接働きかける啓発方法について工夫をしているが、保健センターとつながっていくことを大切にし、具体的にどう働きかけるかを検討していく必要がある。

### 【会長】

伝わらないことをどう伝えるかが大切である。



## 【O委員】

食推としての働きかけは、小・中学校は学校も関心があるため入りやすい。子どもは今、勉強や運動が忙しく台所の手伝いをしておらず中学2年で包丁が持てない、皿の洗い方もわからない子どもが多い。親も、子どもが勉強と運動で忙しいためにさせていない気持ちも分かるが、もう少しできてもいいのではないかと思う。20～30代の働く世代への介入がとても大変だと感じる。活動で企業にも出向いているが、なかなか介入できない。高齢者になると時間があり、自分の体に関心があるため、みんな熱心に取り組んでくれ介入しやすい。

20代から50代の働き盛りの人たちにどのように働きかけていくのか課題と感じる。国の事業も子どもの食育と高齢者の介護予防についてのことが多い。20～30代については、働きかけても忙しくて今自分の身体は健康だからという理由で、食事や健康に対し関心がない。小・中学校の親に集まっていただきたいがそれも難しい。その空白をどう埋めたらいいかということが私たちの1番の課題でもある。

## 【会長】

中学校2年で包丁持てない、洗えない、これが示唆してくれている。とてもショッキングな内容だった。

## 【F委員】

社会の中で生き生きと健康的に暮らす、また社会貢献していくのが老人クラブの目的である。高齢期になると健康に気をつけていく事も増え、サロン活動、口腔ケアの話になると熱心に耳を傾ける方も多い。積極的に関わられる方はいいが、参加したくても身体が思うように動かない人や、老々介護で動けない人への声かけを、様々な取り組みの中でおこない、孤立した高齢者を作らないようにしていきたい。

## 【S委員】

地域で体育の世話をしており感じることは、若い方は仕事が忙しいだろうが、参加して欲しいと感じる。参加をして世話をする立場になると、どうしたら参加したくなるのか、参加する人の気持ちがわかるのではないか、逆の立場に入れば分かることもあるのではと思う。

高齢者で運動をする人は半分いるということだが、退職すると時間に余裕がある。散歩するにしても時間も余裕がある。そういう理由で多いのではないかと思う。働く世代はどうしても時間に余裕がなく忙しい、休みもバラバラで仲間もいない。仲間ができないとどうしても運動をすることにつながらない。そのため、職場の中や地域でスポーツをする部を作り、リーダーを作ればいいのではないかと思う。

今までおこなってきたソフトボールやバレーボールは経験者が少なく高齢化して

おり、若い人は少ない。市も地区の大会も、もっと参加しやすい種目が必要ではないかと感じており、見直しが必要ではないかと思う。また、継続しておこなうことが必要であり、継続してもらえそうな企画を市で考えて欲しいと思う。

#### 【R委員】

啓発していくために必要な媒体はどのようなものを使っていけばよいのか考える必要がある。最近は様々な情報網があるため、チラシをいくら作ってもポイ捨てされてしまうことも多くあり、いかに住民の人に有効に利用してもらうのが課題である。今はスマホの時代のため早い段階で色々な情報が入ってくるし、それぞれ個人個人で情報を取得していく時代である。その中で行政は何を発信したらよいのか、発信の方法を考える必要があると感じる。

資料2の16ページにあるように、結局は企業にとっては従業員であり、その配偶者は子どもはと、最終的には全ての世代につながっていく。地域職域推進協議会で働き盛りの方々への健康づくりに携わっていく機会があるが、どうすれば一人一人自分の健康についてわかってもらえるか、動いてもらえるかを検討していく必要があるのではないかと思う。

#### 【C委員】

薬剤師会としての活動の中で、学校薬剤師というものをやっている。小・中学校で、薬物乱用や、禁煙教室などの講師をおこなっている。親の世代がたばこを吸っているという現状があり、その影響で子どももたばこを吸っているという現状がある。子ども達にたばこの話をすると同時に、親にも禁煙について説明できればよいと思った。

#### 【B委員】

歯と口の健康について、もう少し市民の皆様を広めていかないといけないと感じている。

健康寿命という言葉がある。今は健康寿命の後ろに隠れているのは歯。口腔ケアや歯の健康について多くの方から意識して指導していくとの意見はあったのだが、もっと知っていただきたいことがある。歯の役割は、発音、おいしく食べる、噛む、審美、美しく笑うことにある。一個失うとすべての機能が低下していく。

子どもから高齢者までどの世代も口の中の健康について意識を持っていただきたい。その為にはまず各委員の皆様から意識を高めていただき、良くしゃべり、美味しいものを食べ、そしてにこやかに笑っていただき、そういった私たち各委員の皆さんの働きかけから、市民の皆さんに歯と口の健康の大切さが伝わり、市民が明るく健やかになることを希望している。

子どもに、なぜ歯科に行かないのか、なぜ受診を後回しにして放っておいたのか等

を受診した方との会話の中で聞いたところ、痛くなかったから、面倒くさいから受診しなかったというのが全国どこでアンケートをとっても出てくる回答である。海外は全く逆で歯科に頻繁に通う方が多い。頻繁に通院する理由としては、状態が悪化すると治療費が高いことがある。日本では一番高くても3割負担であり、医療費がかからない方もいる。そして、海外は歯の状態が就職に影響が出ると言われている。口の中を見ればその人の生き様や自己管理能力が分かるためである。企業の採用試験の中では、この口腔内の状況、要は自己管理能力が一つの指標になっているところもある。最近では歯科検診を各企業で導入を開始している。なぜ、今気づいて導入する企業が増えてきているかという、偏差値の高い高校や大学出身者の虫歯の罹患率は極端に低いというデータが出てきているためである。このように口の中の状態について見方が変わってきている状況がある。今後、親も子どもも、成績や就職等、未来のことで意識が変わり、口腔内への意識がワンステップ上がり、口の中が綺麗になっていけばと思っている。

また、むし歯にならないと、将来にかかる医療費が下がる。口腔ケアをしていただき、自分で噛んで飲んで話すことができることで社会的復帰しやすくなるし、自分で生きていける。高齢になってからの誤嚥性肺炎なども予防でき、健康な人が口腔ケアをするともっと健康になり健康寿命も延びる。

まずは、委員の皆さんから意識を変えていただかないことには、市民の方々にも大切さが伝わらないと思っている。そのため歯について、少しでも分からないことあれば、私に質問してほしい。喫煙とともに、防府市民の健康のために、皆さんから発信していただきたいと思っている。

#### 【会長】

口の中の健康は食べることだけではなく、笑ったり話したりする役割もあるため、別の機会に今のようなお話をもっと聞きたいと思う。

#### 【A委員】

今日の説明と皆様からの色々な話を聞かせていただいた中で、さまざまな取組をされてきたことが分かり、行政もいろんな形で市民の方々と一緒に取組をされていることが分かった。しかし、取り組んでいるのにもかかわらず、結果がついてきていないという現状。その中でこれからどうしていけば、少しでも改善されるのか課題である。

その改善点としては、今日出てきた現状を各団体で各自再確認していただき、今までの活動も大切であるが、それに合わせてまた違う視点を入れないと、現状維持からまた悪化の可能性が高い。この10年でそれぞれの団体と行政も含め、どういう風に違う視点を導入していくべきか、検討していく必要がある。各団体への聞き取りや、今回の発表で市としても現状は把握した。しかしこの現状を次は動かしていく必要が

ある。これから先、どこへ向かっていくのか、方針についてなどはぜひ各団体組織に持ち帰り、次回の推進会議等で意見を出していただき、進めていくことができればな  
と  
思っている。

**【会長】**

医師会としても、この7月から胃がんの内視鏡検診を開始した。しかし、依然として受診率が低いのは問題である。こちらについては医師会に持ち帰り、検討できれば  
と  
考える。

(3) 今年度のスケジュールについて

**【事務局説明】** 資料3に基づき説明をおこなう

(4) その他連絡事項について

**【事務局】**

家庭・地域・学校・職域・行政が一体となって協働し、市全体で健康づくりの推進  
をしていくために、本計画への御理解を頂き計画推進について一緒に考える機会を得  
る為に、各委員の所属団体の会議等に、本計画の説明に伺いたいと思っている。各委  
員に受付で渡した文書とアンケート用紙について、7月28日までに提出をお願いし  
たい。

5 閉 会